令和６年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

都道府県・指定都市名	奈良県	学校名	川西町・三宅町式下中学校組合立式下中学校

人権課題	障害者	対象学年・取り扱った教科等	第１学年 総合的な学習の時間	時数等	８時間

目標・人権教育のねらい	○支援を要する人について学び、ともに生きる社会づくりの一歩として、安心してすごすことができる学校、社会づくりについて考える。
実施した内容	①平等と公平（合理的配慮について） ②「障がい」とは ③見た目ではわからない「障がい」 ④障害に負けない人たち ⑤無理解から起こる差別 ⑥車いす体験にむけて ⑦車いす体験 ⑧振り返り
工夫した点	①人にはそれぞれ得意・不得意があり、その延長上に支援や配慮を必要としている人がいるという導入にすることで、より身近なものとしてとらえることができるようにした。 ②③ひとくくりに「障がい」といっても多種多様で、一人ひとりに必要な支援の方法も違うことを知ってもらった。 ④「障がい」を抱えながら生活している人たちも、それぞれの目標に向かって全力で生きていることを紹介した。 ⑤無理解から誰かを傷つけてしまうかもしれないことに気付けるような授業展開にした。身近な例を挙げたり、「あなたならどうする？」と問いかけたりすることで、自分事として考えるきっかけを作った。 ⑥⑦地域の福祉施設とも連携しながら、車いす体験学習を行った。実際に体験することで新たな気づきにもつながった。

令和６年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

他教科との関連	特別活動において、集団生活のあり方について学習した。その際には、総合的な学習の時間を使った人権学習での指導内容とのつながりを意識し、学んだ内容を振り返らせながら、よりよい友人関係を形成する指導を行った。
事業成果	○知識的側面 （Ｒ６学校評価）学校での道徳や人権学習では、いじめ防止や生きる上で大切なことを学んでいる。 よくあてはまる１年53%　昨年度１年48% 【生徒変容の分析】 「あなたが友人や家族と出かけているとき、車いすに乗った人が困っている様子で動けなくなっていました。あなたはどうしますか。」という問いかけに、 ・友人や家族と一緒に助ける。 ・声をかける。 ・応援を呼ぶ。 等、何かアクションを起こすという意見が多く見られた。学習を通して、車いすに乗っている人を身近に感じ、自分にできることはないかと考えるきっかけになった。 ○価値・態度的側面 （Ｒ６学校評価）自他の生命やそれぞれの人格を大切にし、協力しながら仲良く生活しようとしている。 よくあてはまる１年61%　昨年度１年52% 【生徒変容の分析】 ・段差を登るためにタイヤを上げたとき、少し怖く感じた。 ・車いすに乗っているだけで楽なのかと思ったら、状況によっては大変なことがあるとわかった。 ・車いすを押す方は、乗っている人のことを考えて押さないといけないことがわかった。 等、体験してみないとわからないという意見が多数見られた。 ○技能的側面 （Ｒ６学校評価）楽しく安心して学校生活を送れる。 よくあてはまる１年53％　昨年度１年48% 【生徒変容の分析】 「ひいおばあちゃんが車いすに乗っているので、次からは気をつけて運転しようと思った。」など、この経験を自身の生活につなげて考えている生徒もいた。さらに、「自分自身を支えてくれている人や障害を持っている人を支えてくれている人に感謝しようと思った。」「車いすで生活している人たちの気持ちが少しわかり、今の自分の状況が当たり前ではないことがわかったので、今に感謝したい。」といった感想もあり、他人を大切にする気持ちから自分自身も大切にする気持ちへのつながりが見られた。

令和６年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

都道府県・指定都市名	奈良県	学校名	川西町・三宅町式下中学校組合立式下中学校

人権課題	ハンセン病患者等	対象学年・取り扱った教科等	第２学年 総合的な学習の時間	時数等	１２時間

目標・人権教育のねらい	○郷土にゆかりのある偉人、忍性さんの生き方に学ぶ。 ○ハンセン病やハンセン病問題についての事実を知り、同じことが繰り返されないよう、差別や偏見のない社会を築くための意識を高める。 ○ハンセン病問題学習を通して、無知や無関心が無意識の差別につながることや自分の中にもある差別意識に気づき、他者への共感や人権を尊重する態度を育む。
実施した内容	・学習内容の理解を深めるために、、1年時のケガレとキヨメの学習からのつながりを意識しながら、郷土にゆかりのある偉人、忍性さんが生きた時代背景について学習する。 ・忍性さんの生き方や行動を通して自分の生き方を考える。 ・ハンセン病とはどのような病気であるか、基礎的な知識を身に付ける。 ・忍性さんの生きた時代から現在に至るまでの間に、ハンセン病を巡ってどのようなことがあったのかを知り、「ハンセン病問題」の「問題」とは何なのかを考える。 ・映画「あん」の鑑賞や黒川温泉の宿泊拒否事件から、現在も残るハンセン病差別や自分の中にもある差別意識に目を向ける。 ・ハンセン病回復者や支援者の方に出会い直接話を聞くことで、ハンセン病問題をより自分事として考える。
工夫した点	・地域教材を人権学習の出発点に位置づけることで、ハンセン病問題に学ぶ意義を伝えた。 ・昨年度、有志を募って紙芝居作成の会を立ち上げて作成した手作り紙芝居「忍性さん～笑顔のお坊さん～」を忍性さんについての学習の教材として活用した。 ・紙芝居を今年度は紙芝居制作の会の5名の生徒が邑久光明園で披露し、入所しておられる回復者の方と交流を行ったり、校区の小学校の全校集会で披露した。 ・回復者の方をより身近に感じ、ハンセン病問題を自分事として捉えることができるように、ハンセン病回復者と支援者の方にそれぞれ2人ずつ来校していただき、学年を2グループに分けて対話形式で講演会を行った。

令和６年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

他教科との関連	社会科
事業成果	○知識的側面 「ハンセン病とはどのような病気か自分なりに説明することができる。」 5段階評価中　０～２（できない）：９０％→１５％　３～５（できる）：１０％→８５％ 「ハンセン病にどのような歴史があるのか自分なりに説明することができる。」 5段階評価中　０～２（できない）：９２％→２１％　３～５（できる）：８％→７９％ 【児童変容の分析】 学習を進めたり、教材の内容を理解するためにはハンセン病や歴史的背景についての基礎的な知識が必要である。始めの振り返りシートには誤解していると思われる表記があったが、毎回の授業を復習から始めることで、学習を進めるごとに内容を理解する力が定着していることが感想から感じられた。 ○価値・態度的側面 【児童変容の分析】 「もっとどんな病気かを理解したい。」「ハンセン病のことを勉強して、誤った情報をもっている人に本当のことを伝えたい。」「ハンセン病にかかっていた人々の生活、そのあとの人生について知りたい。」「何か自分でもできることがあるか調べてみようと思いました。」と理解や学習への意欲、その先に何か自分にできることをしたいという意見が見られるようになった。 ○技能的側面 「ハンセン病は自分に関係あることだとおもいますか。」 思う：４１％→７５％　　思わない：５９％→２３％ 【児童変容の分析】 学習を進め理解を深めるごとに生じてきた疑問を、回復者の方や支援者の方に積極的に質問することができた。また、授業で学習した内容以外に自分が知っていることを休み時間にクラスメートに伝える生徒もいた。

令和６年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

都道府県・指定都市名	奈良県	学校名	川西町・三宅町式下中学校組合立式下中学校

人権課題	インターネットによる人権侵害	対象学年・取り扱った教科等	第１学年 総合的な学習の時間	時数等	２時間

目標・人権教育のねらい	○安全なインターネット利用を促進 ○情報モラルの向上 ○健全なインターネット利用の習慣化
実施した内容	○ネットトラブル防止教室
工夫した点	①京都府警ネット安心アドバイザーに、ネットトラブル・ネット依存症等について、生徒・保護者・教員対象の啓発講演に取り組んでいる講師の方を招聘した。 ②インターネットやSNSに触れる機会が多くなっている中学１年生にとって、トラブルが増えることが予想される夏休み前に取組を行った。

令和６年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

他教科との関連	特別活動において、よりよい人間関係について学習した。その際には、総合的な学習の時間を使ったネットトラブル防止教室で学んだ内容を振り返らせながら、情報リテラシーを生かしたよりよい友人関係を形成する指導を行った。
事業成果	どの生徒もインターネットに触れる時間は相当長く、ネット依存（ゲーム障害）の傾向にある生徒も存在する。影響が軽微なうちに、ほどよいバランスを取り戻してほしいところであるが、心理面や生活面に悪影響を及ぼしているケースも散見する。また、利用の仕方には受信・発信時の情報リテラシーを必要とするが、それらを兼ね備え、端末を使用できる生徒を育てたい。 〇知識的側面 （全国学力・学習状況調査生徒質問紙）携帯スマートフォンでのSNSや動画視聴時間について ２時間以上　R4:58.6%　R5は設問にないがR6:75.1%で、非常に長時間使用している状況である。 【生徒変容の分析】 ここ数年で携帯スマートフォンの普及により、視聴時間の増加に驚くとともに、家庭でのコミュニケーション不足が人間関係に現れている様である。一方、扱い方については十分に理解しなければならないことを伝えていく。 〇価値態度的側面 （全国学力・学習状況調査生徒質問紙）いじめはどんなことがあっても許されることではない。 どちらかといえば、当てはまらない　R6 3.7%　R5 1.1%　当てはまらない　R6 1.9%　R5 3.2% 【生徒変容の分析】 「どんなことがあっても許されないという認識を持つことができれば、「加害者のいないところに被害なし」という考え方が理解されていく。上記の回答生徒たちには、理由を見つけ出し、相手に悪いところがあってもいじめてよいことにはならないことをきっちりと理解させたい。 〇行動的側面 （全国学力・学習状況調査生徒質問紙）読書は好きですか。 肯定的回答 R6は設問にない。R5 72.1% R4 75% 【生徒の行動変容】 読書時間が長いほど、情報端末に左右される時間が縮減されていると判断できる。読書を行動に移せる生徒であってほしいが、読書時間はきわめて少ない傾向にある点を改善したい。

令和６年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

都道府県・指定都市名	奈良県	学校名	川西町・三宅町式下中学校組合立式下中学校

人権課題	性的指向、性自認	対象学年・取り扱った教科等	全学年 総合的な学習の時間	時数等	４時間

目標・人権教育のねらい	○男女の役割についての固定的な考えを取り除き、「男らしさ」「女らしさ」ではなく「自分らしさ」を大切にする心を育てる。 ○LGBTQ＋の人の現状や課題について理解し、すべての人の性のあり方を尊重する態度を養う。 ○性に関わるカミングアウトに対して、自分がかけるべき言葉を考える取組を通して、相手に寄り添う思いやりの心を行動化できる生徒を育てる。
実施した内容	○教育講演会 “人間と性”教育研究会より講師を迎え、お話を通して、自分の中にある固定的な観念に気づく。 ○エルプロジェクト講演会 「いのち・愛・人権」をテーマにゲストを招き、LGBTQトーク＆コンサート「自分らしく生きる」と題して講演会を実施。ゲストの生い立ちから現在の状況まで数々の出会いを通した生き様を知り、現状や課題について考える。 また、正しい知識を身に付け、性のあり方について、性は多様であることを学ぶ。
工夫した点	・生徒が興味をもって参加・考えやすいようにする。 ・実際の体験談を聞くことで、身近にあることに気づけるようにする。 ・講演後の感想をフィードバックすることで、クラスメイトの考えに触れられるようにする。 ・LGBTQ＋に関する課題を取り上げることで、今後も考え続けるべき問題であることを意識できるようにする。

令和６年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

他教科との関連	２学期に保健体育科にて、「性意識の変化」について学習した。「性のあり方」の導入では、保健体育科で学習した「同性に関心を持つ人や、誰にも性的な関心を持たない人もいる。」という知識を復習してから指導を行った。
事業成果	○知識的側面：「学校での道徳や人権学習では、生きる上で大切なことを学んでいる。」93％ 【生徒変容の分析】 「私はLGBTとは、関係のないことだと思っていましたが、もしかしたら自分の周りの人がLGBTのどれかにあてはまっているかもしれない。そのことを誰にもカミングアウトできていないかもしれない。だから、自分とはまったく関係のないことではない。」と捉えていた。 「身近に男性として生まれ、心は女性であり、好きな人は女性だという人がいます。LGBTについては、理解していたつもりであったが、学習を進めることにより、より知ることができた。」と、知ることの大切さを認識していた。 ○価値・態度的側面：「自他の生命やそれぞれの人格を大切にし、協力しながら仲良く生活しようとしている。」94％ 【生徒変容の分析】 入学した当初は身近にいる誰かとの「ちがい」を認めることが難しく、距離をとったり、攻撃的になってしまうことも少なくなかった。しかし、学校生活のさまざまな時間を使って粘り強く伝え続けることで、少しずつ「ちがい」を認め合えるという感覚を持てるようになってきたと感じている。みんなが認め合い、協力しながら生活することの大切さを伝え続けていきたい。 ○技能的側面：「楽しく安心して学校生活を送れる。」92％ 【生徒変容の分析】 「全員が安心できる学校」ということをもとに、４月から学校全体で取組を行ってきた。取組の成果がこの数値に表れたと考える。ただ、「あまり十分でない」と答える生徒が7％、改善を要すると答えた生徒が5％いることを踏まえると、十分満足できる結果ではない。生徒が答えている改善策には、「一人ひとりが人の気持ちを考えて行動する。」とある。これまでの取組を振り返り、検証し、今後どのように進めていけばよいかを学校全体で考え、様々な角度から教育活動を行っていきたい。